

# 無 中 無盡藏



むいちもつ  
ちゅう  
むじんぞう

何も持たず、何も求めず、ただ今この瞬間に身を置いてみます。手にするものはなくとも、目の前の風景は美しく、言葉を交わさずとも、沈黙のうちに深い交わりが感じられます。その静けさのなかに、満ち足りた世界がそっと広がっているように思われます。飾らず、求めず、ただあるがままに生きる時、世界はそのまま仏の光を帯び始めるのかもしれない。

無一物（むいちもつ）とは、欠けていることではありません。それは、余計なものを手放したときに現れてくる、澄んだ在り方といえるでしょう。そしてその空のなかにこそ、無尽蔵（むじんぞう）の宝が静かに湧いてくるのではないのでしょうか。

それは心の奥にひそむ穏やかな力であり、日々の営みのなかにそっと息づく、いのちの輝きでもあります。何も持たずとも、私たちはすでに満たされているのかもしれない。そう思えたなら、それで十分なのではないのでしょうか。

醫王山  
承天寺